

(5) ブドウ

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
べと病 (<i>Plasmopara</i>)	①新梢の病患部を早く取り除く。 ②落葉を放置せず、土中深く埋めるなどの処分をする。	①5月上中旬～7月中旬に農薬を散布する(収穫前日数に注意)。 (例) オキサチアピプロリン・マンゼブ水和剤(ゾーベックエニベル顆粒水和剤) キャプタン水和剤(オーソサイド水和剤80) シアゾファミド水和剤(ランマンフロアブル) シアゾファミド・TPN水和剤(ドーシャスフロアブル) チウラム水和剤(チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル) マンジプロバミド水和剤(レーバスフロアブル) マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など) ②多発生園は治療効果のある農薬を散布をする。 (例) ホセチル水和剤(アリエッティ水和剤) ③袋かけ後～収穫後は銅水和剤を中心に散布をする。 (例) 銅水和剤(Zボルドー、コサイド3000、ICボルドー48Qなど)
	【参考事項】 病原菌は落葉中の卵胞子で越冬する。発病適温は22～25℃である。欧州系品種は弱く、米国系品種は強い傾向がある。本病害抑制には予防が特に重要なので、発病前から定期的に農薬を散布する。 QoI(ストロビルリン系)剤の耐性菌が発生している。耐性菌の蔓延を防ぐために、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション防除を心がける。	
黒とう病 (<i>Elsinoe</i>)	①罹病枝及び巻ひげを除去し、剪定枝を適切に処分する。 ②徒長、晩期伸長しないよう施肥する。 ③新梢、果実の病患部を早く取り除く。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) ジチアノン水和剤(デランフロアブル) チウラム・チオファネートメチル水和剤(ホームマイコート) チウラム・ベノミル水和剤(ベンレートT水和剤20) ②展葉後に農薬を散布する。 (例) マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など) ③開花直前に農薬を散布する。 (例) 有機銅水和剤(キノンドーフロアブル、ドキリンフロアブルなど) ④落花後から梅雨明けまで数回、農薬を散布する。 (例) イソフェタミド水和剤(ケンジャフロアブル) シアゾファミド・TPN水和剤(ドーシャスフロアブル) シモキサニル・ファモキサドン水和剤(ホライズンドライフロアブル) マンデストロビン水和剤(スクレアフロアブル) ビラジフルミド水和剤(パレード15フロアブル) ⑤多発園で散布する。 (例) テブコナゾール水和剤(オンリーワンフロアブル)
	【参考事項】 結果母枝や巻ひげの組織内に菌糸の形で越冬する。 ストロビルリン系薬剤は果粉の溶脱に注意する。	
晩腐病 (<i>Glomerella</i>)	①罹病枝及び巻ひげを除去し、剪定枝を適切に処分する。 ②発病房は除去処分する。 ③密植園は間伐して通風を良くする。 ④袋かけは果実への侵入を防止できるので、梅雨入り前に作業を完了する。 ⑤雨よけ栽培を導入する。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) ジチアノン水和剤(デランフロアブル) チウラム・チオファネートメチル水和剤(ホームマイコート) チウラム・ベノミル水和剤(ベンレートT水和剤20) ②4月から梅雨期にかけて農薬を定期的に散布する(収穫前日数に注意)。 (例) オキサチアピプロリン・マンゼブ水和剤(ゾーベックエニベル顆粒水和剤) キャプタン水和剤(オーソサイド水和剤80) シアゾファミド・TPN水和剤(ドーシャスフロアブル) ビラクロストロビン・ボスカリド水和剤(ナリアWDG)(大粒種) (果粉の溶脱回避のため果実が小豆大までに散布する) フルアジナム水和剤(フロンサイドSC) フルジオキシニル水和剤(セイビアーフロアブル20) マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など)
	【参考事項】 結果母枝や巻ひげの組織内に菌糸の形で越冬する。春期に分生子を形成して伝染する。発病適温は25～28℃である。 ストロビルリン系薬剤は果粉の溶脱に注意する。	
さび病 (<i>Physopella</i>)	①落葉を処分する。 ②冬の間に中耕する。 ③中間寄主のアワビキ属植物を伐採する。	①発生初期から農薬を散布する。 (例) クレソキシムメチル水和剤(ストロビードライフロアブル) マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など)
	【参考事項】 中間寄主のアワビキ属植物の葉上に形成されたさび胞子、ブドウ枝組織内で越冬して再形成された夏胞子で伝染する。巨峰、デラウェアに発生が多い。 ストロビルリン系薬剤は果粉の溶脱に注意する。	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
うどんこ病 (<i>Uncinula</i>)	①病気にかかった枝、落果、落葉を処分する。 ②排水を良くし、通風を図る。	①6月中旬～下旬に農薬を散布する。 (例) トリフルミゾール水和剤(トリフミン水和剤) ②多発園で散布する。 (例) ピリオフェノン水和剤(プロパティフロアブル)
	【参考事項】 越冬生態は不明。発病適温は20～30℃で、少雨の年に多発する。巨峰、ネオマスカットに発生が多い。	
苦腐病 (<i>Greeneria</i>)	①剪定時に罹病つるを除去処分する。 ②密植園は間伐して通風を良くする	①落弁期までに農薬を散布する。 (例) チオファネートメチル水和剤(トップジンM水和剤)
	【参考事項】 病原菌は巻ひげなどで越冬し、4～9月にかけて胞子を飛散させる。発病適温は20～30℃である。デラウェアに発生が多い。	
房枯病 (<i>Botryosphaeria</i>)	①剪定時に罹病つるを除去処分する。 ②密植園は間伐して通風を良くする。 ③排水不良園では排水に努める。	登録農薬は無い。
	【参考事項】 病原菌の生態は苦腐病とほぼ同一である。発病適温は25～30℃である。	
白腐病 (<i>Coniella</i>)	①剪定時に罹病つるを除去処分する。 ②密植園は間伐して通風を良くする ③排水不良園では排水に努める。	①開花期から幼果期に農薬を散布する。 (例) イプロジオン水和剤(ロブラール水和剤) フルジオキシニル水和剤(セイビアーフロアブル20)
	【参考事項】 病原菌の生態は苦腐病とほぼ同一である。発病適温は25～30℃である。	
灰色かび病 (<i>Botrytis</i>)	①枝の過繁茂を避け通風を良くする。 ②発病果穂は見つけ次第取り除く。	①開花前と落花直後に農薬を散布する。 (例) イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシシン水和剤(ポリベリン水和剤) イソフエタミド水和剤(ケンジャフロアブル) キャプタン水和剤(オーソサイド水和剤80) ボスカリド水和剤(カンタスドライフロアブル)(大粒種) 同一農薬の連用は耐性菌が発生するので避ける。
	【参考事項】 前年の被害残さ上で菌糸や菌核の形で越冬する。春に分生子を形成し、風や降雨によって飛散する。発病適温は15～23℃である。	
褐斑病 (<i>Pseudoecerospora</i>)	①落葉を処分する。 ②樹体内栄養が不足すると発病が多いので、深耕をし、肥料を十分に施して樹勢を旺盛にする。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) イミノクタジン酢酸塩液剤(ベフラン液剤25) ②5月以降に農薬を散布する。(収穫前日数に注意) (例) キャプタン水和剤(オーソサイド水和剤80) マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など)
	【参考事項】 結果母枝や幹の粗皮間隙、落葉上で越冬する。発病適温は20～25℃である。	
チャノキイロアザミウ	①イヌマキなどの防風樹を手入れする。 ②不用な副梢は早めにせん除して処分する。 ③冬季に粗皮はぎを行う。	①開花前から幼果期を重点に、早めに農薬を散布する。 (例) アクリナトリン水和剤(アーデントフロアブル)(アザミウマ類) カルタップ水溶剤(パダンSG水溶剤)(大粒種) クロチアニジン水溶剤(ダントツ水溶剤) シクラニリプロール液剤(テッパン液剤) スピロテトラマト水和剤(モベントフロアブル)(アザミウマ類)
	【参考事項】 粗皮下、落葉下、浅い土壌中に成虫又は蛹で越冬する。年7～8回発生する。ほ場近くのチャやイヌマキなどは寄主植物となる。	
フタテンヒメヨコバイ	①過繁茂を避け、通風と採光を良くする。 ②落葉などを処分し、園内の清掃に努める。	①越冬成虫及び第1世代幼虫(6～7月)を重点に農薬を散布する。 (例) アクリナトリン水和剤(アーデントフロアブル) カルタップ水溶剤(パダンSG水溶剤)(大粒種)
	【参考事項】 樹皮の割れ目、落葉内、雑草中、家屋の軒下などに成虫で越冬する。年3回発生する。	
クワコナカイガラムシ	①越冬期に粗皮はぎを行う。	①休眠期に農薬を散布する。 (例) 石灰硫黄合剤(落葉果樹)(カイガラムシ類)(発芽前) ②5月上旬～下旬に農薬を散布する。 (例) クロチアニジン水溶剤(ダントツ水溶剤)(コナカイガラムシ類) スルホキサフロル水和剤(トランスフォームフロアブル)(カイガラムシ類) ブプロフェジン水和剤(アブロードフロアブル)(カイガラムシ類幼虫)
	【参考事項】 卵のう内の卵塊で越冬、年2～3回発生する。	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
ブドウトラ カミキリ	①被害枝を切り取って処分する。 ②粗皮下の越冬幼虫を刃物で削りとり捕殺する。	①収穫後の8月中旬～9月上旬（成虫の羽化最盛期）と10月上旬～中旬（ふ化～食入期）に農薬を散布する（収穫前日数に注意）。 （例） アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤） MEP水和剤（スミチオン乳剤）（大粒種、小粒種） ②落葉後の休眠期に農薬を散布する。 （例） MEP乳剤（ガットキラー乳剤）
	【参考事項】 年1回発生する。3～5齢幼虫が結果母枝の樹皮下で越冬する。	
コガネムシ 類	①成虫は柵をゆらすと落下するので、地面にビニルシートを敷き、集めて処分する。	①5～7月に発生を見たら農薬を散布する（収穫前日数に注意）。 （例） アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤）（成虫） シベルメトリン水和剤（アグロスリン水和剤）
	【参考事項】 2～3齢幼虫が根や堆肥などを食べて越冬する。年1回発生する。	
ブドウスカ シバ	①被害枝を切り取って処分する。 ②若い枝の被害を早く見つけて虫を捕殺する。 ③寄主植物であるエビヅル、ノブドウなどがほ場周辺にある場合には抜き取って処分する。	①成虫の羽化最盛期（5月中旬～6月上旬）とその10日後頃にあたる幼虫のふ化最盛期に農薬を散布する。 （例） カルタップ水溶剤（パダンSG水溶剤）（大粒種）（スカシバ類） フルベンジアミド水和剤（フェニックスフロアブル）（スカシバ類） CYAP水和剤（サイアノックス水和剤）
	【参考事項】 老熟幼虫（枝内）で越冬する。年1回発生する。成虫は一見ハチに見える。	
クビアカス カシバ	①虫ふんを目印に食入幼虫を探し、捕殺する。	①成虫飛来期（6月上旬～8月中旬）に農薬を散布する（収穫前日数に注意）。 （例） カルタップ水溶剤（パダンSG水溶剤）（大粒種）（スカシバ類） フルベンジアミド水和剤（フェニックスフロアブル）（スカシバ類）
	【参考事項】 土壌（土壌表層）で越冬する。年1回発生する。成虫はスズメバチに擬態している	
ハダニ類	①冬季の粗皮はぎを行う。 ②下草雑草の除去を行い、生息密度を下げる。	①休眠期に農薬を散布する。 （例） 石灰硫黄合剤（落葉果樹）（発芽前） ②発生初期に農薬を散布する。 （例） ビフェナゼート水和剤（マイトコーネフロアブル） ミルベメクチン水和剤（コロマイト水和剤）